

「保健医療科学」  
第60巻 第1号 予告

特集：子どもの健康と環境に関するエビデンス

新たな治験活性化5カ年計画の中間見直しに基づく現状と課題	後澤乃扶子
医師主導治験と日本医師会治験促進センターの取組み	山本学
臨床試験における臨床研究〔試験〕情報検索の活用について	飛田英祐
医薬の世界同時開発と多地域試験	佐田文宏
臨床試験の適応的デザイン	上坂浩之
薬物動態・薬力学におけるモデリングと臨床試験シミュレーションの利用	丹後俊郎
統計モデル：母集団モデルと無作為化モデル	長谷川貴大

編集後記

今号の特集は、環境省の通称「エコチル調査」（正式名：子どもの環境と健康に関する全国調査）の概説、展望、そして調査計画の準備として科学院が担当した5分野のレビュー（胎児発育抑制・自閉症・先天異常・喘息の環境要因、環境汚染物質と出生性比）から構成されています。

内容的に社会的な関心が高いテーマでもあり、多くの関係者にとって参考になる内容と思われまふ。しかし、レビューが「エコチル」における仮説形成の準備作業として行われたという経緯から窺えるように、環境が健康に及ぼす影響は分かかっていないことが多いことにも気づかされます。ノーベル物理学賞受賞者・益川敏英氏の言われる「科学とは肯定のための否定の連続」の一里塚なのでしょう。その一方で、科学的解明が不十分ななかで問題解決を行う技術も社会には求められていますので、今後はこのような観点に立った特集も必要かもしれません。

さて、「保健医療科学」は今まで3ヶ月に1回の割合で季刊されていましたが、次巻（第60巻）より隔月刊行（bimonthly）となります。科学院の責務「公衆衛生および社会福祉の向上・普及に資する情報発信」を内外に一層強める必要があるためです。

そのためには、特集の充実と、読者各位・関係各位による幅広い層からの投稿が必要となります。今後とも宜しくお願いいたします。

なお、今号の特集に掲載されたレビューは、下記書籍により詳しい内容が掲載されています。興味のある方は御参照ください。

（監修）林 謙治，（編者）加藤則子，藤原武男，須藤紀子，瀧本秀美  
子どもをとりまく環境と食生活—妊娠期からのすこやかな発育・発達のために  
日本小児医事出版社，2010年刊行，全316頁。

（安藤雄一）